

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 1月号

2017年1月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：仲地 貴弘（豊見城中央病院）

◆ 今月の CONTENTS

- 特集 「薬害エイズ裁判和解から 20 年。被害者の語り」
琉球大学医学部附属病院 石郷岡 美穂……1
- 報告 平成 28 年度入退院支援連携デザイン事業 実務者（多職種）研修（宮古圏域）を終えて
大浜第一病院 當銘 由香……3
- 報告 めだかの学校
那覇市立病院 比嘉 優理／前濱 杏美……4
- 今月のトピック
大浜第二病院 安慶名 真樹……4
- 新入会員の紹介
大道中央病院 金子 亜紀乃……5
- 各部会報告
・研修部だより
・広報部だより
- はいさいワーク（社会医療法人仁愛会 浦添総合病院）
公立久米島病院 新垣 美鈴……6
- コラム

◆ 特集

『薬害エイズ裁判和解から 20 年。被害者の語り』を企画しました。

琉球大学医学部附属病院 石郷岡 美穂

誓いの碑

命の尊さを心に刻みサリドマイド、スモン、HIV感染
のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させるこ
とのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努
力を重ねていくことをここに銘記する

千数百名もの感染被害者を出した

「薬害エイズ」事件

このような事件の発生を反省し

この碑を建立した

平成 11 年 8 月 厚生省

左記の誓いは東京霞が関、厚生労働省
の正門横に建つ石碑に刻まれています。

2016 年は薬害エイズ裁判で国と製薬
会社が責任を全面的に認め、歴史的な和
解成立から 20 年の節目の年です。

本事件で被害を受けたのは血友病の患
者さんとその家族でした。今回は裁判の
背景をふり返り、最後に研究会のご案内
をさせていただきます。

<血友病とは>

私たちの体には、出血した時に凝固反応によってそれを止めようとする仕組みが備わっています。血友病は止血に不可欠な凝固因子が少ない、あるいは活性（働き）が低いため、出血すると止まりにくかったり、止血に時間がかかる疾患です。平成 27 年度は、国内で約 6 千人の血友病患者さんが報告されています。（血液凝固異常症全国調査）現在血友病の治療は、安全性の高い凝固因子を自己（家族）注射で補充する方法がとられ、医療費は公費負担医療制度が適用します。

<血友病の人々の暮らし>

血友病の 7 割は遺伝で、今でこそ補充療法をしながらスポーツを楽しむ人もいますが、血友病医療が発展するまでは「20 歳まで生きられない病気」と言われていたそうです。（ヘモフィリアネット HP より）出血の不安で多くの生活制限があり、学校の体育や運動会は常に見学だった体験談を聞いたことがあります。

<HIV 感染>

1970 年代末に登場した血液凝固因子製剤は、それまで輸血に頼らざるを得なかった血友病患者さんにとって画期的で「生きる希望」となりました。しかし国が承認した非加熱血液製剤には HIV（エイズ原因ウイルス）が混入しており、治療で製剤を使用した血友病患者さんの 4 割、約 2,000 人が HIV に感染しました。被害者は謂れ無い偏見差別に苦しみ、感染告知の遅れは発病を防ぐ治療の遅れにつながり、二次（配偶者）、三次（子）感染の悲劇も生まれました。

<薬害エイズ裁判>

1989 年、東京と大阪で被害者と遺族は非加熱製剤の危険性を認識しながらも、それを認可・販売した厚生省と製薬企業 5 社を被告とする損害賠償訴訟を起こしました。7 年後の 1996 年、被告は加害責任を全面的に認め、和解が成立。国は被害者救済を図るため原告らと協議をしながら各種の恒久対策を実現させることを約束しました。（はばたき福祉事業団 HP より）

<被害者の語り>

被害者の平均年齢が 40 代半ばと知ると、彼らの親御さんもお高齢になられていることが想像でき、私たちにもお役に立てることがあるはずと思いつつ、普段は彼らと接する機会がほとんどありません。そこで 1 月 21 日（土）に開催する第 8 回沖縄 HIV 臨床カンファレンス（チラシ参照）のソーシャルワーカー分科会に原告団の一人をお招きし、その方が生きてきた道のりや裁判への思いに耳を傾け、この事件の理解を深めたり、私たちのあるべき姿を仲間と共に考える場を企画しました。

これからは、エイズ治療拠点病院だけで患者さんを診る時代から、患者さんの利便性や治療目的に適した医療機関で診る時代になっていきます。拠点病院以外からのお申し込みも大歓迎いたします。

**報告：平成 28 年度入退院支援連携デザイン事業 実務者（多職種）研修
（宮古圏域）を終えて
報告者：大浜第一病院 當銘 由香**

去った 12/4（日）、沖縄県宮古合同庁舎 2 階講堂にて入退院支援連携デザイン事業実務者（多職種）研修の第 1 回研修会が開催され、宮古医療圏域の関係職種 6 7 名の方が参加して下さいました。

午前中は沖縄大学教授で当協会監事の富樫八郎先生による『患者のくどう生きるか』を支える支援について』の講演でした。患者さんの発する SOS（急性悲嘆）を見逃さず早期に介入することの重要性、また患者の対処能力を向上させるため各専門職に求められる支援課題が図表や事例も交え具体的に示され、私たちの支援は「患者・家族のため」であり、“患者の社会生活機能を高める支援”をすることが目標であるということを改めて理解できる内容でした。

午後はこの事業の概要について説明を受け、シンポジストとワールドカフェを開催。

宮古島で活躍されている各専門分野の代表 6 名に現状と課題について報告をしてもらいました。宮古島は回復期病棟がなく、急性期から直接自宅か施設かを選択しなければならず、急性期退院後のリハビリ（生活リハも含めた）の継続に大きな課題があるということでした。“顔が見える”という意味では狭い圏域なので皆さん顔は知っているようでしたので、

ワールドカフェでは一歩進んで“患者・利用者にシームレスな支援を行うための明日からできる連携”を隠れテーマとし話し合いをしてもらいました。スタート当初は皆さん口数も少なかったのですが、段々と盛り上がりを見せ、最後は時間が足りない状況でした。

研修終了後のアンケートでは概ね好評を頂き、本研修のねらいでもある“切れ目のない医療及び介護の提供体制を構築するための方法を考える”きっかけ作りにはなれたのではないかと考えます。

最後に短い準備期間にも関わらず、スライド準備や当日のファシリテートなどご協力を頂いたシンポジストの皆さん、圏域の役所・医師会担当の皆さん、ご協力頂き本当にありがとうございました。

研修当日は 1 2 月というのにまさかの夏日でしたが、宮古島の研修参加者の熱意も同じ位熱いものを感じました。

今後、宮古同様に八重山、北部、中部、南部と 4 圏域の研修会が開催されます。

他職種の専門的な視点を直接聞くことができ、自分の専門職としての視点を改めて考えさせられる機会となりますので、ぜひ自分の圏域の研修会には参加して下さい。



ワールドカフェの様子。各分野の専門職が参加。



宮古圏域シンポジストの皆様。

報告：めだかの学校

那覇市立病院 比嘉 優理／前濱 杏美

12/21(水)、那覇市立病院にて、めだかの学校が行われました。

講師として、パーソナルサポートセンターの照屋裕子さんをお招きし、主に生活困窮者自立支援制度について那覇市を中心に県内全域の事業の概要を教えてくださいました。

そもそもパーソナルサポートセンターという名称は市町村により異なることや、事業内容もそれぞれ独自に展開されていることなど、目から鱗の情報が満載の講義内容でした。

支援の対象者は障害者からひきこもり、刑余者など多岐にわたり、各関係機関と連携しながらクライアントが自立した生活を送れるようになるまで、長期的な寄り添い型の支援を行っていることがわかりました。また、講義内で挙げられた「アセスメントの領域と視点」では、クライアントの生活背景を事細かに聴き取り、分析し、個別の支援計画を立てているという話を聞き、MSW としてもとても勉強になりました。

今回得た学びを、今後の患者さまの支援に活かせるよう、また、パーソナルサポートセンターへ円滑に繋がられるよう、MSW として意識していきたいと思います。

今月のトピック

報告者：大浜第二病院 安慶名 真樹

「うずまきパン」。ジャリジャリと砂糖を直球で感じるクリームをふわふわのパンでまいた・・・先月11月号のトピックを担当した伊禮さんに続き、今月もパンの話ではなく、宮古圏域研修についてのお話をひとつ。

12月4日(日)に、入退院支援連携デザイン事業の宮古圏域研修がありました。担当の當銘さん、伊禮さん、会長の樋口さん、県の座嘉比さんの前日現地入りに、私と高江洲さんも同行し、会場設営やらシンポジストとの打ち合わせやら、医師会長への挨拶まわりやら、てんやわんやと準備を行い、当日を迎えました。

当日の参加者は約60名で、医師や薬剤師、ケアマネ、リハ職、看護職、ソーシャルワーカーと多くの事業所、病院から参加されていました。3つの講演の後のシンポジウムでは、各事業所から連携する上での現状や課題、工夫点などが盛りだくさんで発表され、最後のワールドカフェでは、宮古の地域包括ケアシステムの構築のために、明日からできることを話し合い、「かんばんーい！！」の掛け声の元、活発な意見交換がなされました。意見としては、午前中の富樫先生の講演にもあったように、「相手と話がしづらくては本当の連携とはいえない」に感化された参加者たちは、「まずは明るく挨拶から！」「電話もいいけど一度は会おう！」「お互いの役割を知って、もっと活用しよう！」などの発表があり、明日から取り組むことを誓いあいました。宮古らしくオリオンビールのプラスチックコップをまわしながら、おとーり形式で一人ずつ意見を言ってもらい、全員が酔っ払ったような意気揚々とした白熱した意見をかわし、最後は「楽しかった！！」と顔も赤く高揚した雰囲気です研修会を終えました。

グループワークが苦手と話していた宮古の皆さん。でもやっぱり皆自分たちの地域のこれからのことを熱心に考えていて、課題はたくさんあるけれどもどうにかしたい、という思いはひとつなんだと、参加

者の皆さんの気持ちがひしひしと感じ取れる研修でした。2日間しか宮古にいなかったのに濃厚な時間を皆さんと共有したため、最後にシンポジストの皆さんから「次回は八重山圏域研修、がんばってください」と声をかけてもらった時には、いい地域だな、宮古圏域・・・熱いぜ・・・と少し仲間意識に浸っていた私。研修の予熱を感じながら終わった後、担当者たちは後片付けをして酒も飲まず、まじめに空港へ向かい帰路につきました（涙）。でも研修前夜に、ラウンジ・テーブルで謎の紳士と踊る樋口会長を見れたからいいか・・・この入退院支援連携デザイン事業が、沖縄圏域全体で自分たちの地域への熱い取り組みの活力となることを願って、次回の八重山圏域研修も盛り上げていきます！

☆ 新入会員紹介 ☆

大道中央病院 金子 亜紀乃

はじめまして。平成 28 年 8 月から大道中央病院に入職させていただきました金子亜紀乃と申します。入職前は民間企業や市役所で勤務しまして、今年社会福祉士の資格を取得しました。病院は初めての経験でわからないことばかりですが、研修等に参加させていただき学んでいきたいと考えております。皆様からのご指導を頂きますと幸いです。これからよろしく願いいたします。

部会からのお知らせ

■研修部（研修部だより 平成 29 年 1 月の予定）

めだかの学校 定例活動

日時：1月18日（水） 19：00～

会場：南部徳洲会病院

内容：訪問看護について

めだかの放課後

日時：1月19日（木） 19：00～

会場：中頭病院（新病院）

内容：入退院支援連携デザイン事業

（宮古研修の振り返り、八重山研修の準備確認）

めだかのホームルーム

日時：1月18日（水）19：00～

場所：大浜第一病院

内容：事例検討を予定

●OGSV●

日時：1月11日（水） 18：30～20：00

場所：那覇那覇市立病院

内容：DVD 視聴「実践！スーパービジョン より質の高い援助実践をめざす」
沖縄ソーシャルワーク学会・社会福祉公開セミナー予演

入退院支援連携デザイン事業（県委託事業）
日時：1月29日（日）10：30～16：30
場所：沖縄県八重山合同庁舎（石垣市真栄里）
内容：八重山圏域実務者（多職種）研修会

■広報部

・当協会ホームページが昨年10月よりリニューアルされました。今後は各種研修の案内や研修報告、はいさいワーク（求人情報）等、会員の皆様にとって有意義な情報を掲載していきますので、ぜひチェックしてください。

はいさいワーク No, 81

【社会福祉士の募集】

- 1、求人事業者名：社会医療法人仁愛会 浦添総合病院
- 2、仕事の内容など：相談業務
- 3、資格：社会福祉士
- 4、雇用形態：正社員以外産休代行要員
雇用期間：～平成30年5月31日
- 5、就業時間：8：30～17：30（日祝休み、土曜日半日当番勤務あり）
- 6、給与：当法人の規定に準ずる
- 7、連絡先：社会医療法人仁愛会 管理本部 人事課宛て
098-874-4306（人事課直通）

コラム

公立久米島病院 新垣 美鈴

故郷の久米島に帰り早2年。この間に何人もの「治療を自己中断した患者」に出会いました。そのような方に対して沖縄本島で働いていた頃は「コンプライアンスの悪い患者」と言っていたかもしれませんが、しかし、自己中断に至るまでの患者・家族の苦悩を聞いていると「コンプライアンスが悪い」という問題ではないことをしみじみと感じます。自分の健康と引き換えに家族の生活費を工面する。あるいは、休みが取れずに泣く泣く診察をあきらめる。そのような患者がMSWに会うときには、症状が出て、苦しくなって、働けなくなった頃ということも多いのです。その間に家族との感情的な齟齬や会社からの信頼を失って、社会的な孤立に至っていることもしばしばです。

当院の病床は40床。常勤医は内科5名、小児科1名となっていますが、毎週、毎月、2か月に1回、

年に1回など、他院からの応援医師が来てくれる専門診療科もあります。しかし、当院の一番高度な画像検査はCTです。そのため、検査、治療プランの決定のために沖縄本島の地域医療支援病院等へ受診していただくことが多々あります。

「公立病院なのになんでここで検査してくれないの？」という言葉をよく言われます。そのたびに病院の機能や状況を説明しながら本島の病院へ紹介することを繰り返します。本当に、島の生活を考えると当院でできることが増えてくれるといいなと思いつつも、毎年100人前後も住民が減っていることを考えると今から新たな機能を取り入れることは難しいだろうということもわかっているので辛いところです。患者・家族の状況を考えながら、なるべく負担が少なくなるような調整を行い、社会資源をフルに活用し、ひたすら島民の主治医病院としてできる最大限を提供する。そして最後には本人・家族がどのような意向であろうと最後まで寄添う医療。病院の規模や社会資源の問題もありできることは少ない「公立」病院である当院を信じ、通い続けてくれる患者・家族のみなさまも大勢います。

離島の患者が本島に受診するというのは一大事なことです。日帰りで診察できるように協力して下さる病院もたくさんありますが、診療科によっては「朝一に受付してもらい、午後いっぱいかかるつもりで来てください。」という案内もよくある事です。そのため、患者は、前日から本島に出て、宿泊できる親戚がいなければホテルに泊まり、受診当日は受付時間に間に合うようタクシーで移動し、いつ診察が終わるかわからないのでその日もホテルに宿泊。翌日島に帰ってくるといった具合です。仕事を持っている方は2-3日の休暇をもらう必要があり、年金生活の方は1回の受診で1か月の年金の半分近くを使います。離島で健康に暮らすためには時間もお金も都会以上に必要なわけですが、皆さんご存知の通り、離島・へき地の平均所得は全国平均の半分以下、月給制や年休のある職種は少なく、休んだ分だけ給料が減るといって生活をしている方が大半です。

当院の理念は「島民の主治医病院をめざす」つまり、プライマリ・ケアを本分としているわけです。島民の生活の苦悩も楽しみも知って、最後まで「島で生きる」を支える病院であり続けたい、そして、それを支えるMSWでありたいと思いつつ、今日もいろいろな病院に紹介させていただいております。

皆様、平成29年もどうぞよろしく申し上げます。

※今回のコラムに関しましては寄稿者の意向により病院名と氏名を公表しております。

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

編集後記

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年の広報部も会員の皆様に有意義な情報をお届け出来るようがんばります。本ニュースに関するご意見ご感想がございましたら、お聞かせ下さい。よろしくお願い申し上げます。

昨年、師走の超多忙な中、快く原稿執筆を受けていただきました皆様、本当にありがとうございました。